

火力発電用燃料タンクの運用下限に関する考え方について

2026年4月1日

関西電力株式会社

当社は、2026年3月31日をもって、関西国際空港エネルギーセンター1、2号機（大阪府泉南郡）を廃止しました。

これに伴い、「需給ひっ迫を予防するための発電用燃料に係るガイドライン^{※1}」に基づき公表している火力発電用燃料タンクの運用下限^{※2}に関する考え方について、関西国際空港エネルギーセンターに関する事項を削除しましたので、お知らせします。

※1：資源エネルギー庁が定めたガイドライン。燃料タンクの運用下限の考え方については、透明性を担保するため対外的に公表することが望ましいとされている。

※2：燃料輸送船の着積遅延等、必要なリスクへの対応を考慮して運用上確保している燃料の数量。

以 上

添付資料：燃料タンクの運用下限に関する考え方

燃料タンクの運用下限に関する考え方

基地名	舞鶴発電所	堺LNG基地	姫路LNG基地	御坊発電所	
燃料	石炭	LNG	LNG	石油 (超低硫黄油)	石油
貯蔵設備容量	500,000 t	560,000kl	520,000kl	60,000kl	60,000kl
発電ユニット	舞鶴発電所1、2号機	堺港発電所1～5号機	・姫路第一発電所5、6号機、 ・姫路第二発電所1～6号機	御坊発電所1号機	御坊発電所3号機
運用下限※の考え方	外航船1日分の着積遅延リスクを想定 (最大消費量/日×1日を確保)	外航船2日分の着積遅延リスクを想定 (最大消費量/日×2日を確保)	外航船1日分の着積遅延リスクを想定 (最大消費量/日×1日を確保)	設定なし	内航船2日分の着積遅延リスクを想定 (内航船輸送力/日×2日を確保)

※ 着積遅延等、必要なリスクへの対応を考慮して運用上確保している燃料の数量